十島村教育委員会だより 令和２年６月号

さわやかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

「コロナウィルスと大雨」

十島村教育長 有村 孝一

降りしきる雨をふと見上げながら，窓の下で，大きなランドセルを背負っている近くの小学生の通学の様子に目が留まりました。ランドセルに交通安全のカバーをしていることから，おそらく小学校１年生だろうと推測されます。雨にも負けずに，楽しそうに学校に向かっている姿に，「頑張っているんだね。」と声さえかけたくなりました。

中之島をはじめ各島の皆様には，豪雨でがけくずれによる道路の通行止めや停電等でご苦労をおかけしました。何とか復旧できたものの，自治会長さんや区長さん方をはじめ，役員の皆様，消防団や出張所長さん方々の日頃のご努力のおかげです。本当にご苦労をおかけしました。先ほどのあの一年生を見ながら，あの豪雨の中で，今年入学した一年生を始め転入してきた児童生徒や山海留学生は，どれだけ怖かったかと思うと，今でも，胸がしめつけられる思いがします。当たり前のように，学校が始まり，当たり前のように島に子どもたちの声が響く。そんな生活が，本当に幸せな日々なんだろうなと教育に携わる者として改めて思う日々です。

当たり前の日常が，当たり前でなくなる。それは，今のコロナウィルス感染拡大防止のために，皆様にご努力いただいてる日々が，まさにその状態なのかもしれません。5月14日に国による緊急事態宣言は解除されましたが，感染が広がる前の日常生活とは，ほど遠い生活です。しかも，最近は，感染経路が分からないという情報が，テレビやラジオのニュースで流れています。感染経路がわからないということは，日常の生活の中で，いつ，どこで感染してもおかしくないということです。６月１９日，「外出はマスクをする。遊びに行くなら屋内より屋外を選ぶ」「人との間隔は，できるだけ2m（最低1m）空ける」「会話をする際は，可能な限り対面を避ける。」「家に帰ったらまず手や顔を洗う。」等々のコロナウィルス対策に熱中症対策を付け加えいかなければなりません。「部屋の温度および湿度を28℃以下および70％以下に維持できる範囲内で，２方向の窓を常時，できるだけ開けて，連続的に室内に空気を通すこと」「一方向しか窓がない場合は，ドアを開けるか，天井や壁の高い位置にある窓を追加で開けること」一方向しか窓がない場合は，ドアを開けるか，天井や壁の高い位置にある窓を追加で開けること」「マスク着用は熱中症リスクが高くなるおそれがあるので，屋外で人と十分な距離（少なくとも２m以上）が確保できる場合，マスクをはずしましょう。着用時は強い負荷の作業や運動は避け，こまめに水分補給をする。」等付け加えられています。学校では，年齢差８歳の子どもたちが，助け合いながら，この困難に立ち向かおうとしています。まさに，雨に立ち向かっている冒頭の一年生のようです。

このような知恵と努力が，いつの日か「いきる力（知恵）」として生かされいくだろうと願っています。終息する日々を願いながら。

今月の「十島パワーにパチリ！」

【テレビ遠隔授業風景】

【６月９日（火）宝島小・中学校「租税教室」から】

本村では毎年、小・中学校の児童生徒を対象に「租税教室を実施しています。税金の使い方や税金がどのように役立っているかという学習を行なっています。昨年度は、中之島での全島小学生集合学習で、七島の５・６年生全員で学びました。今年度は，宝島小・中学生を対象にテレビ会議で行われました。今回は，テレビ会議を通じて，鹿児島税務署の方が，クイズやプレゼンテーションの画面で，詳しくそして分かり易く教えてくださいました。クイズの回答をしている宝島の子どもたちも画面や音声を通じて，楽しく学んでいる様子が伝わってきました。

子供のうた

四月十五日 南日本新聞掲載

鳥のしゃしん

あ 鳥だ
あ 人間だ
しゃしん とれるかな
カメラをもっている
にげないかな
ここにいるのきづくかな
カチャ
きれいにとれたかな
きれいに
とってくれた
かな

（宝島小二年 本名 百竹）

アカヒゲ（村ＨＰより） 十島の村鳥

【シリーズ 新聞に投稿】

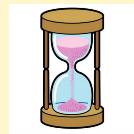
（令和２年5月19日南日本新聞「若い目」掲載）
悪石島小学校６年 赤崎羽月

「母との時間のちがい」

国語で「時計の時間と心の時間」を学んで、「心の時間」は、人によって感覚が異なるというところに特に共感しました。私にも母との「心の時間」のちがいを感じた経験があるからです。母は、「早く宿題をしないさい。」や「早く寝なさい。」など「早く」を強調します。「うるさいな」と思い、「今からやるんだよ」と言ってしまうことがあります。

本当に「今からやるぞ」とスイッチが入っていても、母にそう言われると80だったやる気が20に減ってしまいます。みなさんは、しようとするする前に言われると、やる気をなくしてしまうことはありませんか。

この文章を読んで、私の「心の時間」はゆっくりで母と違うことがわかり、よかったと思いました。これからは本当に必要なときだけ言ってほしいと、母に伝えられたらいいなあと思います。



（令和２年５月２６日 南日本新聞「ひろば」掲載）
口之島中学校２年 望月悠雅

「留学2年目，頑張るぞ」

僕は静岡から口之島に来ました。山海留学2年目です。口之島寮に住んで、口之島中学校に通っています。僕の今年の目標は三つあります。

一つ目は、来年の受験に向けてしっかり勉強することです。僕は学習した一つ一つのことを理解するのが遅いので、早めに取り組んで受験に臨みたいです。

二つ目は、整理整頓をしっかりすることです。物をどこに置いたかが分からなくなり、見つからずに困ることがあるからです。

三つ目は、スポーツテストのシャトルランを100回以上できるようになることです。口之島での１年間でかなり体力がつきました。今の僕の記録は83回なので、もっと体力をつけて100回の目標を達成したいです。

この三つは、学校の校訓「選択肢を広げる学力」「自他の良さを見つける心」「たくましく生きる体力」から考えました。僕は、この目標を胸にしっかり頑張ります。

令和2年7月1日～8月31日

夏の「郷土に学び・育む青少年運動」

夏の「郷土に学び・育む青少年運動」って，どんなことをしているかご存知ですか？

夏休み期間を中心に，青少年の自立の精神と豊かな感性のかん養，国際的感覚やふるさとを愛する心を家庭・学校・職場・地域及び関係機関・団体等が一体となって育てながら，郷土に根ざしたグローバルな人材を育成する県下一斉の取り組みです。（一部抜粋）

昨年度の各島での取り組みを一部紹介いたします。
口之島小・中学校・・・・・ＳＮＳについて考えよう。
中之島小・中学校・・・・・「フィルタリング」の設定
諏訪之瀬島小・中学校・ノーメディアデー（毎月２３日）
平島小・中学校・・・・・・・「子ども達を取り巻くインターネットの現状」
悪石島小・中学校・・・・・保護者のための情報モラル教室
小宝島小・中学校・・・・・とからいきいき教室・小宝島子ども会
宝島小・中学校・・・・・・・「宝島カップ」バドミントン大会

年2回行われる取組です。今回の重点項目は，①SNSの被害防止②家庭のふれあいの促進③環境づくり④広報活動等，4項目です。積極的に取り組んでくださいますよう，御協力をよろしくお願いいたします。

シリーズ・・・十島村で学ぶ

「助 け 合 う 島」
中之島中学校 ２年 中島 礼人

６月４日，日本でコロナウイルスが流行している中，中之島は大きな雨雲につつまれていた。雷の音がひどくて授業に集中できなかった。また，急に明かりも消えてしまった。三時間目が終わった休み時間，廊下が水びたしになってしまい，ぞうきんで床をふいた。暗い中，四時間目が始まり，雨はどんどん強くなっていく。昼休みが終わり，みんなで協力してぬれた学校の廊下をぞうきんでふいていった。午後，児童と生徒は家の人に迎えに来てもらい家に帰った。帰る途中，マンホールなどから水があふれていた。当然，家も停電していたし，水も出なかった。真っ暗な中，「他のところは大丈夫かな。」と不安でいっぱいだった。いつも聞こえるテレビの音，鳥の鳴き声が聞こえない。聞こえているのは，屋根にはげしくうちつける雨の音だけ。夕方になると，雨は止んでいた。しかし，電気も付かないし水も出ない。だから，ご飯が作れない。そんな中，婦人会の方々が島民のために炊き出しをしてくださった。「温かいご飯ってこんなにおいしかったんだ。」とあらためて思った。また，とてもうれしかった。

ぼくは，「早く電気がついてほしい。」という考えでいっぱいだった。二日後の昼，何と電気がついた。そして水も出るようになった。この大雨の中，作業をしてくださった方々がたくさんいる。また，婦人会の方々にもお世話になった。道で会ったときには，元気良く「ありがとうございました。」と言いたい。

【諏訪之瀬島小・中学校からのメッセージ】

教諭 辻 明啓

地図で見ると，海の上に点在している十島村。

しかし，人や物の動きをたどると，「点在」ではなく「つながった線」が見えてくる。考古学を学ぶ人の中には，十島村の一つ一つの島を「海のオアシス」と呼ぶ人もいる。この島々は，古来より人や物の交流を支え文化をつなぐ中継地点として重要な意味を持ってきた。

現在も，フェリーとしまという物理的なつながりを基軸とし，生活物資の移動が行われている。同時に山海留学生の転入や教職員の人事異動など，多様な人的交流も行われている。また，整備が進んでいるインターネットを活用し，新しい情報化時代の中で，よりいっそうお互いを身近に感じることができる「つながり」の強化が進められている。

環境が整っていく中で，最後に「つなぐ」という行為を行っていくのは，私達一人一人の主体的な動きが重要となる。「つないで，つむぐ」を意識したより良い教育活動の展開を目指し，日々あり方を模索する今日この頃。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

梅雨の天気が悪い中いかがお過ごしでしょうか。教育活動の動力源は，健康な体と心です。ここが崩れてしまうと，様々な活動に支障をきたしてしまいます。自分の心と体のメンテナンスをするようできるのは，自分です。

受けるべき検診を受けて，必要があれば早めの医療機関の診察を受けることが大事です。お互い体調管理に気をつけてこれからの暑い夏を乗り切っていきましょう。